

数学

大学教員

好きで選んだ数学への道 ～ 女性数学者になるまで

桐山(中筋) 麻貴 (北里大学一般教育部 講師)

仕事の内容とやりがいについて

現在の私の仕事は大学での数学教育と研究で、どちらもとてもやりがいのある仕事です。教育は、将来を担う学生を育てるという大事な仕事です。学生一人一人が確実に知識を身につけられるよう、私のできる範囲で精一杯サポートしていきたいと思っています。研究は、先人の仕事(定理やその証明方法、確立した理論等)を勉強し、それを応用する中で、新しい数学を作っていくことが仕事です。自分の知らなかったことがわかった時や、研究経過の中で新たな関係式が得られた時は、自分が歴史の一部に立てたような感動があります。

仕事と家庭のバランスについて

現在2人の子供(3歳と6歳)の育児をしながら仕事に取り組んでいます。平日は、朝型人間であることを利用して、早朝(4時ごろ)に起きて自分の時間を確保し、夜は家族と一緒に過ごす時間にとっています。家事や育児は夫の協力を得て分担しています。一方、休日は仕事から離れ、家族みんなで思いっきり遊んでいます。オンとオフのメリハリをしっかりつけることで全体のバランスをとっています。

私の進路決定のきっかけ

高校生のころ、数学が好きだったことに加え、数学の先生(女性)から「あなたは数学の才能がある」と褒めて(おだてて)いたのが後押しとなり、数学科への進学を考え始めました。高校3年の夏、その先生がくも膜下出血のため倒れ、そのまま他界されました。ご家族の方から、先生が数学者になりたかったけれど家庭の事情(女性であったこと)で断念したことを伺い、「私が先生の代わりに女性数学者になる!」と決意しました。しかし大学在学中には、自分の思い描いていたように数学が理解できず、数学者の道を断念することも考えました。あきらめかけて数学から離れようとした時、自分がどれだけ数学が好きだったかを知り、最後は「数学の道」を選択しました。

進路選択についてのアドバイス

海外で生活することで、何でも自分から行動することが、前進のための大きな第一歩であることを学びました。誰かが与えてくれるのを待つのではなく、好きなおとこ(得意なおとこ)や、身近なおとこ(手の届くおとこ)から「とりあえずやってみる」「自分で見てみる」ということがよいと思います。自分ができることを1つずつ増やしていけば、自ずと進むべき道が見えてくるとと思います。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

2008年から2010年の2年間の間、米国スタンフォード大学に留学しました。この留学で得た一番の収穫は、自分に適した研究スタイルを確立できたことです。アメリカという異なった環境の中で、新たな気持ちで取り組んだ研究の日々は、活発なディスカッションと自由な研究時間で構成された充実したものでした。おかげで期待どおりの研究成果も出すことができました。この経験を通じて、渡米前よりも研究に対する意識が向上し、自分にとって効率的な方法や研究のバランス、方向性を見つけたことができたことは何物にも変えられません。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

子供が大学内の保育園に通っていたことから、文系理系を問わずに研究や勉強に従事している女性達と普段から交流をする機会に恵まれました。彼女たちは、育児をしながらもそれぞれの分野でアクティブに活躍していました。育児中でも活躍できるその背景には、協力的な家族の存在と寛容な職場体制、そして同じ環境の仲間が存在のあったのだと思います。私自身、育児中ということ周りが理解してくれ、また同じ育児中の女性がんばっていることが励みとなり、育児と研究を両立することができました。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

海外留学は、いつの頃からかずっと夢として持っていました。ただ、家族の生活のことを考えると、なかなかその機会を見つけられず、夢のままで終わってしまうのかな、と半ばあきらめていました。転機は、私が日本学術振興会特別研究員(PD、採用期間の半分である1年半の海外滞在が可能)に採用されたこと、また同時期に夫(研究者)も海外特別研究員に採用されたことでした。すぐに、家族全員で渡米することを決め、準備をはじめました。また渡米から1年半が経過した頃にスタンフォード大学に短期(半年)の職を得ることができたため、結果的に2年間の留学となりました。

滞在先の思い出・生活者としての体験

渡米後すぐに、大学内で駐車違反をさらされました。許可証をだしていないという理由でしたが、実は許可証を貼る場所を間違っていたのです。定位置に貼らなかった自分が悪いので、罰金を払おうと思っていたのですが、理由を聞いたアメリカ人に進められ、警察に交渉したところ、見事に駐車違反が取り消されました。その後は、どんなささいなことでも問題があれば自分の意見を主張することを心がけました。ノーということとはとても勇気のいることですが、続けていくうちに度胸もつき、さらに自信につながりました。アメリカ生活において学んだことの1つです。



<桐山(中筋) 麻貴(きりやま(なかすじ) まき) プロフィール>

- 1998年 慶應義塾大学理工学部数理科科学卒
- 2000年 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工専攻修士課程修了
- 2003年 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工専攻博士課程修了 博士(理学)
- 2003年 慶應義塾大学COE特別研究員PD
- 2004年 慶應義塾大学理工学部訪問研究員 結婚、第1子出産
- 2006年 津田塾大学数学・計算機科学研究所専任研究員
- 2007年 日本学術振興会特別研究員PD 第2子出産
- 2008年 スタンフォード大学数学科訪問研究員
- 2011年 北里大学一般教育部講師(現職)

